

Jリーグの成長と発展

2年2組32番 平林 颯良（高瀬ゼミ）

Abstract —30年の歴史があるJリーグだが、リーグ全体、各クラブの中でもまだまだ入場者数や人気に課題があり、それには様々な要因がかかわっていることがわかった。その要因を解決する策を考え、どうしたらこれからJリーグがさらに発展できるかを示す。

Keyword：スポーツ、Jリーグ、スタジアム、広報、入場者数

研究背景

30年以上の歴史を持つJリーグは、1993年に発足した。以来、クラブ数やファン、サポーターの数は増加したが、実際に自分がスタジアムに足を運んだり中継を見たりする中で、今でも人気であり、そしてどんどん人気になっていると言えにくいように感じた。さらに発展するのか、または現状維持になるのか、それにはどういう要因があるのか疑問を持った

研究目的

自分の人生の一部になっているJリーグがこれまで30年の年月を振り返り、そしてこれからの30年、そしてその先で日本を代表するプロスポーツリーグになり、毎試合スタジアムが満席になり、そして日本を超えて世界でも人気のあるコンテンツになるため。

研究方法

2025年8月に行われた明治安田J1リーグの試合を参考に、同じリーグの、また同じチームで1年前の試合と比較する。

選抜したチーム

・FC東京…首都クラブ ・柏レイソル…8月時点での首位 ・ファジアーノ岡山…J2から昇格してきたチーム、比較的に団

研究結果

1試合目 FC東京 VS 京都サンガF.C. in 味の素スタジアム
入場者数 27591人 収容率 27591/48013, 約57%

2試合目 柏レイソル VS 浦和レッズ in 三協フロンテア柏スタジアム
入場者数 13922人 収容率 13922/15349, 約90%

3試合目 ファジアーノ岡山 VS 湘南ベルマーレ inJFE 晴れの国スタジアム
入場者数 14256人 収容率 14256/15000, 約95%

1年前の同時期の試合（開催地は同じ）

FC東京 VS 東京ヴェルディ 入場者数 39921人 収容率 約83%

柏レイソル VS 東京ヴェルディ 入場者数 12692人 収容率 約82%

ファジアーノ岡山 VS モンテディオ山形（J2）入場者数 7214人 収容率 約48%

考察

東京や広島のような都市にホームを構えるチームは順位に関わらず入場者数が多くなる。地方のチームは都市のチームのように安定した入場者数を確保するのが難しいと感じた。結果からわかる入場者数に直結する一番重要なことは「J1にいること」だと考える。ファジアーノ岡山は2025年にJ1に上がり、入場者数が倍以上になっている。そのためクラブがJ1に所属しているということはその自治体全体で盛り上げ、入場者数が増えることにつながると考える。また柏レイソルのようなサッカー専用スタジアムを所有しているが、収容可能人数が少ないチームは高い収容率をキープすることはできるが、どうしても長くそのチームを応援している人でスタジアムが埋まってしまうため、新規のファン獲得が難しいと感じた。

結論及び今後の展望

クラブの入場者数を増やすにはJ1に所属することが一番重要だと分かった。しかし2025年現在J1に所属できるのは20チームだけでありそれ以外のチームは所属することができない。そのため、J1、J2、J3のチームすべてで入場者数を増やすためには、今後はスタジアムがサッカー専用であり、収容可能人数が多い、さいたまスタジアム2002のようなスタジアムを全クラブが所有することが重要である。そしてそのようなスタジアムを持った上で、各クラブの広報や自治体の盛り上げ、サポーターによって新規ファンを獲得する。そしてその新規ファンを根付かせるために様々なイベントを行ったり、入場者プレゼントを配るなどの工夫を各クラブ、Jリーグ全体で行うことが必要だと考える。

参考文献

*1 Jリーグ公式サイトJ.LEAGUE Data Site. [J. League Data Site](#)

コメントの追加 [徳増1]: タイトル：18pt、ボールド

コメントの追加 [徳増2]: 名前：12pt

- ・番号と氏名との間に全角1マス
- ・氏名とゼミの名称との間のマスはなし
- ・ゼミの括弧は全角
- ・苗字と名前との間は全角1マス

コメントの追加 [徳増3]: 各項目の名称はHGPゴシックのボールド